

AIDS 教育用印刷教材の効果 (1)

深田博己・高本雪子・深田成子

Effects of printed teaching material for AIDS education (1)

Hiromi Fukada, Yukiko Takamoto, and Seiko Fukada

本研究は、エイズ教育用印刷教材である日本学校保健会 (2003) のパンフレット「AIDS 正しい理解のために高校生用エイズ教育教材」の効果进行分析することを目的とした。実験計画は、1 要因 2 水準の実験参加者間計画であり、本質的には事後測定法であった。すなわち、実験群は、パンフレットを読みながら、また読んだ後に質問紙に回答し、統制群は、パンフレットを読まずに、質問紙に回答した。115 名の大学生の実験参加者は、実験群と統制群のどちらかに無作為に配置された。統制群における従属変数の分析から、ベースラインである初期反応には、36 変数中 23 変数に性差が存在することが見出された。実験群と統制群の間には、35 変数中 5 変数にのみ有意差が見られ、パンフレットの効果は限定されることが分かった。なお、パンフレットの効果に関する性差も顕著でなかった。

キーワード：AIDS 教育，印刷教材，効果分析

問 題

1. AIDS 教育に関する先行研究の構造

AIDS 教育には、HIV 感染予防行動の促進と PWH/A (Person with HIV/AIDS : HIV 感染者と AIDS 患者の総称) への共感・理解という 2 つの目的があると、高本・深田 (2008) は捉えている。すなわち、AIDS 教育は、HIV 感染予防教育と PWH/A との共生教育という 2 つの教育から成立すると言える。

そして、高本・深田 (2008) によると、HIV 感染予防教育に属する先行研究は、HIV 感染予防を目的とする教育的介入とその効果に関する研究と、教育的介入を伴わない HIV 感染予防行動の規定因に関する研究に大別され、同様に PWH/A との共生教育に属する先行研究も、PWH/A への態度の改善を目的とする教育的介入とその効果に関する研究と、教育的介入を伴わない PWH/A への態度の規定因に関する研究に大別される。

2. 教育的介入を伴わない HIV 感染予防行動の規定因に関する研究

これまで、我々の研究グループは、教育的介入を伴わない HIV 感染予防行動の規定因に関する一連の調査的研究を実施してきた (深田・高本, 2007; 木村, 1996, 1997; 高本, 2006; 高本・深田, 2006,

2008)。高本 (2006) は、防護動機理論 (Rogers, 1983) と集合的防護動機モデル (深田・戸塚, 2001) の枠組みを利用した 2 種類の影響過程モデルに基づき、3 種類の HIV 対処行動意思 (コンドーム使用行動意思、不特定性関係抑制行動意思、HIV 抗体検査受検行動意思) の規定因とその影響過程を検討し、集合的防護動機モデルを利用した場合の説明力の方が大きいことを見いだした。この高本 (2006) の研究における最終変数を HIV 対処行動意思から 4 種類の不適応的対処に置き換えて検討した高本・深田 (2006) は、両モデルのいずれを利用していても説明力は小さいと指摘した。また、集合的防護動機モデルを利用し、HIV 対処行動意思と不適応的対処を同時に最終変数として影響過程モデルに組み込んだ深田・高本 (2007) は、集合的防護動機モデルがある程度の説明力を有することを間接的に証明した。さらに、独自の影響過程モデルを作成した高本・深田 (2008) は、HIV 対処と PWH/A との共生の両最終変数を同時に取り上げて、規定因とその影響過程を検討した。その結果、恐怖感情が PWH/A への肯定的態度を促進し、偏見的態度を抑制すること、感染予防知識が不特定性関係抑制行動意思を促進し、共生知識がコンドーム使用行動意思を促進することを発見した。

3. 教育的介入とその効果に関する研究

これまで、さらに我々の研究グループは教育的介入とその効果に関する実験的研究を実施してきた。これらの研究は、恐怖喚起コミュニケーション、恐怖アピール、あるいは脅威アピールと呼ばれる説得的コミュニケーションの効果とその規定因および生起過程を検討する説得研究 (木村, 1995; 木村・深田, 1995) と、既存の AIDS 教育教材の効果を検討する教育教材研究 (深田・木村, 2000; 木村, 1999, 2000) の 2 つの領域に分類される。

わが国で行われている AIDS 教育や AIDS キャンペーンに関する実践研究の問題点として、木村 (1999) は、研究相互で理論的枠組みが共有されていないことと、効果的な情報内容が特定されていないことを指摘した。そして、防護動機理論の枠組みから、視聴覚的媒体であるビデオソフトの内容分析を試みた。木村 (1999) は、中学生以上を対象にわが国で製作された AIDS 教育用ビデオ教材 22 本を収集し、10 本を分析対象ビデオに選定した。実験参加者は、約 1~5 分のフレーズ単位に、次の情報内容の有無を評定した。すなわち、①AIDS の知識 (AIDS の原因、感染経路)、②防護動機理論変数 (AIDS の深刻さ・かかりやすさ・対処方法の効果性・対処への自己効力を高める情報、対処に要するコストを低減する情報)、③AIDS 患者・感染者に関する情報 (偏見・差別、患者の気持ち、共生の方法) の有無と、その表現の程度などを評定した。その結果、ビデオ教材は、①脅威型 (AIDS の危険性を主に強調する教材)、②予防型 (AIDS の予防法を主に強調する教材)、③検査型 (AIDS の早期発見を強調する教材)、④共生型 (患者・感染者との共生を主に強調する教材) の 4 タイプに分類できると報告した。

こうした木村 (1999) の内容分析から見出された 4 類型を代表するビデオ教材を 1 つずつ選定した木村 (2000) は、4 類型のビデオ教材が AIDS 予防行動意思、PWH/A への態度、および不適応的対処に及ぼす影響を検討した。実験は、統制群を使用しないで、4 類型のビデオ教材を視聴させる 4 群の実験群のみを使用する実験参加者間計画で、事前-事後測定法に基づく従属変数の変化量が効果分析に使用された。その結果、AIDS 予防行動意思に関しては、予防型教材のみが不特定性

関係抑制行動意思と AIDS 検査受検行動意思を増加させることが分かった。PWH/A に対する態度に関しては、脅威型は支持的態度を増加させ、予防型は忌避的態度を減少させ、検査型と共生型はともに忌避的態度と制御的態度を減少させることが判明した。不適応的対処に関しては、予防型と共生型はともに希望的観測と信仰を減少させ、検査型は思考回避と希望的観測を減少させることが明らかとなった。さらに、防護動機理論の変数に関しては、脅威型、予防型、共生型はいずれも生起確率認知を増加させ、検査型は深刻さ認知を減少させることが示された。このように、ビデオ教材の内容類型によって、その効果は異なることが確認されたが、体系的な説明には程遠いものであった。

この木村 (2000) の研究において AIDS 予防行動意思の改善に唯一効果を生じさせた教材である予防型のビデオ教育教材のみを取り上げた深田・木村 (2000) は、実験群 1 群のみを用い、主要変数を事前-事後測定法に基づき測定し、予防型ビデオ教材の効果をより詳細に検討した。説明変数は、防護動機理論の仮定する 7 つの認知変数 (深刻さ、生起確率、内的報酬、外的報酬、反応効果性、自己効力、反応コスト) と 2 つの感情変数 (不快嫌悪、恐怖不安) であり、目的変数は、因子分析の結果に基づく 2 つの AIDS 予防行動意思 (性関係抑制・AIDS 検査、コンドーム使用)、PWH/A に対する 2 つの態度 (保護的態度、忌避的態度)、5 つの不適応的対処 (思考回避、運命諦観、絶望、希望的観測、信仰) であった。目的変数に対する説明変数の影響力に関して、事前測定値を使用した分析、事後測定値を利用した分析、事後測定値と事前測定値の差である変化量を利用した分析の 3 種類の分析を行った。その結果、AIDS 予防行動意思に対して有意な効果を示した説明変数の数は、事前測定の 2 個から、事後測定では 4 個に増加し、PWH/A への態度に対して有意な効果を示した説明変数の数は、事前測定の 1 個から、事後測定では 3 個に増加した。深田・木村 (2000) の結果から、AIDS 予防教育用ビデオ教材を視聴することによって、防護動機理論の 7 つの認知変数と AIDS 予防行動意思および PWH/A への態度との間の関係性がある程度強化されたと解釈された。

4. AIDS 教育印刷教材

AIDS 教育用教材には、上記のビデオ教材と共に印刷教材も存在する。日本学校保健会 (2003) は、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修の基で、「AIDS 正しい理解のために」という A4 判 8 ページ (カラー印刷) の「高校生用エイズ教育教材」を作成している。本研究では、平成 15 年 2 月に発行された同教材 (11 版) の効果を検討することを目的とする。

日本学校保健会 (2003) の印刷教材「AIDS 正しい理解のために 高校生用エイズ教育教材」の内容は、以下の通りであるが、最終ページを除けば、ほとんどのページで文章は最低限に抑えられており、文章の比率は約 20~50% であり、残りの約 50~80% はイラスト、写真、図、表である。

(1) 第 1 ページ (表紙)

主題：「AIDS 正しい理解のために」

副題：「高校生用エイズ教育教材」

挿入文章 3 点：「知ってる？エイズのほんと。」「エイズを理解してください……………」「誤解や偏見をなくしましょう。」

イラスト5点：(説明省略)

(2) 第2ページ

大見出し：「なぜエイズが問題になっているの？」

小見出し2点：「エイズは、」「我が国の HIV 感染者の届出数も増加しています。」

図2点：「世界のエイズ患者届出数の年次推移」「我が国の HIV 感染者（患者を含む）届出数の年次推移」

(3) 第3ページ

大見出し：「エイズとはどんな病気なの？」

小見出し2点：「後天性免疫不全症候群」「免疫機能のしくみ」

写真2点：「HIV 粒子の電子顕微鏡写真」2枚

(4) 第4ページ

大見出し：「HIVに感染するとどうなるの？」

小見出し4点：「感染」「エイズの前段階」「エイズ」「感染しないように」

イラスト2点：「免疫力が次第に低下 この期間は、全て感染力があります。」(1点の説明省略)

(5) 第5ページ

大見出し：「どのようにしてうつるの？」

小見出し1点：「エイズも性感染症です。」

注1点：「クラミジア感染症とは：」

図1点：「HIV 感染者（患者を含む）の年齢構成」

表1点：「性クラミジア感染症の全国疫学調査」

写真1点：「クラミジア顕微鏡写真」

(6) 第6ページ

大見出し1点：「どうすればうつらないの？」

中見出し1点：「感染を予防するには危険な行動をしないことです。」

イラスト1点：(説明省略)

大見出し1点：「こんなことではうつりません」

中見出し：「正しい理解が不安を除きます」

イラスト3点：(説明省略)

(7) 第7ページ

大見出し1点：「誤解や偏見をなくしましょう。」

中見出し3点：「これまで、」「今、」「これから、」

写真2点：「レッドリボン運動」「メモリアルキルト」

イラスト2点：(説明省略)

文章挿入1点：「長く共に生活を送り、希望を持って生きていく社会をつくりましょう。」

(8) 第8ページ(裏表紙)

大見出し：エイズ Q&A

内容：7点のQ&A

文書挿入 1 点：「エイズに関する医学は刻々進歩し、社会情勢も変化していきます。将来にわたって新しい情報と正しい知識を知り、適切に判断できるように心がけましょう。」

5. 本研究の目的

本研究の目的は、日本学校保健会（2003）の印刷教材「AIDS 正しい理解のために 高校生用エイズ教育教材」の効果を分析することである。AIDS ビデオ教材の効果を検討した木村（1999, 2000）や深田・木村（2000）では、実験群のみを設定し、事前-事後測定法を採用することによって、ビデオ視聴前後の実験群の反応の変化から、ビデオ教材の効果を評価していたが、本研究では、実験群に加えて統制群を設定し、事後測定法を採用しつつ、印刷教材の効果を評価する。

方 法

1. 実験計画と実験参加者

独立変数は、実験操作要因 1 要因 2 水準の実験参加者間変数であり、従属変数の測定は事後測定法を採用した。すなわち、印刷教材を読みながら、あるいは印刷教材を読んだ後に主要な従属変数に関する測定を行う実験群と、印刷教材を読む前に主要な従属変数の測定を行う統制群を用意した。

実験参加者は、中国地方の私立大学の学部学生 115 名であり、実験群と統制群に無作為に配置された。その結果、実験群は 57 名（男性 25 名、女性 32 名）で平均年齢 20.40 歳 ($SD=1.78$)、統制群は 58 名（男性 25 名、女性 35 名）で平均年齢 20.12 歳 ($SD=1.24$) となった。

2. 実験手続き

高校生用エイズ教育教材のパンフレットに対する調査という名目で、心理学関係の授業中に授業担当教員が実験を実施した。実験群用の実験材料セットをピンク色の封筒に入れ、統制群用の実験材料を薄緑色の封筒に入れ、実験群と統制群の比率が男女で同率になることを狙って、男女別に実験群用の封筒と統制群用の封筒を無作為に配付した。

実験群用の封筒と統制群用の封筒には、3 種類の質問紙とパンフレットがセットになって入っていた。3 種類の質問紙は、実験群と統制群では内容が異なるが、いずれも「パンフレットを読む前に答える質問」「パンフレットを読みながら答える質問」「パンフレットを読んだ後に答える質問」というタイトルが表紙に印刷してあった。実験者は、実験参加者に対して封筒の中から実験材料（実験参加者にとっては調査材料）を取り出させ、実験（実験参加者にとっては調査）の進め方について教示を与え、実験を開始した。印刷材料を使用した実験であるので、見かけは集合調査法による質問紙調査に類似していた。

実験群も統制群も、最初に「パンフレットを読む前に答える質問」に回答し、次にパンフレットを 1 ページずつ読みながら、「パンフレットを読みながら答える質問」に回答し、最後に「パンフレットを読んだ後に答える質問」に回答した。実験群における「パンフレットを読む前に答える質問」は統制群との等質性を確認するための簡単な質問であり、「パンフレットを読みながら答える質問」は主にパンフレットの内容の理解度を測定する質問であり、「パンフレットを読んだ後に答える

質問」はパンフレットの効果を判定するための主要な従属変数の測定であった。統制群における「パンフレットを読む前に答える質問」は実験群のパンフレット効果を判定するためのベースラインの測定であり、パンフレットはフィルター・メッセージ、「パンフレットを読みながら答える質問」と「パンフレットを読んだ後に答える質問」はフィルター質問であった。

3. 実験群における実験材料

(1) 事前測定

実験群における事前測定は、実験群と統制群の等質性を間接的に確認するために実施した。パンフレット接触前の反応測定のための「パンフレットを読む前に答える質問」紙は、2ページ構成であった。表紙には、「パンフレットを読む前に、次のページの質問に答えてください。回答はすべて4つの選択肢の中から1つ選んでいただく形式になっています。選んだ選択肢の番号に○印をつけて答えてください。」と教示が書かれていた。

エイズ情報への接触度 「あなたはエイズに関する情報を、学校のエイズ教育やマスコミの報道や口コミを通して、どの程度見聞きしたことがありますか」という問に対して、「まったく見聞きしたことがない(1点)」から「非常に詳しく見聞きした(4点)」までの4段階選択肢で回答させた。

エイズに関する主観的知識 「あなたは、エイズという病気について、どの程度詳しく知っていますか」という問に対して、「まったく知らない(1点)」から「非常に詳しく知っている(4点)」までの4段階選択肢で回答させた。

エイズに対する関心 「あなたは、エイズ問題について、どの程度関心がありますか」という問に対して、「まったく関心がない(1点)」から「非常に関心がある(4点)」までの4段階選択肢で回答させた。

(2) パンフレット接触中の測定

実験群における接触中測定は、主にパンフレットで提示された情報内容に関する実験参加者の理解度を測定するために実施された。パンフレット接触中の反応測定である「パンフレットを読みながら答える質問」紙は、9ページ構成であった。表紙には、「パンフレットの2～8ページを1ページずつ読むごとに、次の質問紙に回答してください。質問紙のページ数はパンフレットのページ数に対応しています。パンフレットの2ページ目を読んだ直後に質問紙の2ページ目に回答し、パンフレットの3ページ目を読んだ直後に質問紙の3ページ目に回答する、というように、1ページ読むごとに1ページずつ質問紙に回答してください。」と教示が書かれていた。

また、質問紙の2～8ページの最上部には、「※パンフレットの、○ページ目を読んだ後、回答してください。」と書かれていた。

2～8ページ共通の教示 質問紙の2～7ページには、「あなたはパンフレットの○ページ目を読んで、その内容をどのくらい理解できましたか。またその内容にどのくらい興味をもちましたか。次の(1)～(x)の項目それぞれについて、4つの選択肢のうち、最も当てはまるものを1つ選んで、番号に○印をつけて答えてください。」という教示があった。また、8ページ目では、一部の語句を削除して、「あなたはパンフレットの○ページ目を読んで、その内容をどのくらい理解できましたか。次の(1)～(9)の項目それぞれについて、4つの選択肢のうち、最も当てはまるものを1つ選んで、

番号に○印をつけて答えてください。」という教示を用意した。

2～8 ページ共通の最初の質問項目「主題の事前知識」と回答方法 2～7 ページの最初の質問項目は、共通の質問であり、「パンフレットを読む前に、このページの内容をどのくらい知っていましたか」という問に対して、「まったく知らなかった（1点）」から「非常に詳しく知っていた（4点）」までの4段階選択肢で回答させた。

2～8 ページ共通の2番目の質問項目「主題の全体的理解」と回答方法 2～7 ページの2番目の質問項目は、ページによって内容は異なるが、共通の質問であり、「今ページを読んで、「(当該ページの主題)」という問題について、理解できましたか」というページ全体の主題の理解に関する問に対して、「まったく理解できなかった（1点）」から「非常によく理解できた（4点）」までの4段階選択肢で回答させた。また、8 ページ目の2番目の質問項目では、一部表現を修正して、「このページを読んで、「エイズQ&A」の内容を理解できましたか」という問いを使用した。

各ページの主題は、2 ページ目が「なぜエイズが問題になっているのか」、3 ページ目が「エイズとはどんな病気なのか」、4 ページ目が「HIVに感染するとどうなるのか」、5 ページ目が「HIVにはどのようにしてうつるのか」、6 ページ目が「どうすればHIVにうつらないのか」、7 ページ目が「HIV感染者やエイズ患者への偏見・差別」、8 ページ目が「エイズQ&A」であった。

2～7 ページの個別の質問項目「個別の情報内容の理解」と回答方法 2～7 ページの3番目から最後から2つ目までの質問項目は、「このページを読んで、「(該当ページの個別の情報内容)」について理解できましたか」という問に対して、「まったく理解できなかった（1点）」から「非常によく理解できた（4点）」までの4段階選択肢で回答させた。該当ページの個別の情報内容については、下で説明する。

2～7 ページ共通の最後の質問項目「主題への関心」と回答方法 2～7 ページ最後の質問項目は、「このページを読んで、「(当該ページの主題)」という問題について、興味がわきましたか」という問いに対して、「まったく興味がわかなかった（1点）」から「非常に興味がわいた（4点）」までの4段階選択肢で回答させた。

各ページの主題は、「主題の全体的理解」のところで述べたとおりである。

各ページで個別の情報内容の理解度を問う質問項目 2 ページ目の個別の情報内容は、①世界のエイズ患者数やHIV感染者数、②エイズの治療薬の現状、③日本のエイズ患者数やHIV感染者数、④日本人感染者に最も多い年齢層や大多数が国内で感染していること、であった。

3 ページ目の個別の情報内容は、①エイズ（後天性免疫不全症候群）が発病するしくみ、②免疫機能のしくみ、であった。

4 ページ目の個別の情報内容は、①HIV感染後の潜伏期、②エイズの前段階の症状、③エイズの発病、④HIV感染の早期発見・早期治療の大切さ、であった。

5 ページ目の個別の情報内容は、①HIVの感染経路、②日本におけるHIV感染者・エイズ患者の年齢構成、③エイズは性感染症のひとつであること、④若い世代の性器クラミジアの流行、⑤他の性感染症のある患者はエイズに感染しやすいこと、であった。

6 ページ目の個別の情報内容は、①コンドームを正しく使えばHIV感染を予防することができる

こと、②薬物乱用による注射器の共用は HIV 感染の危険性があること、③相手を次々に変えるような性交が HIV 感染の危険を大きくすること、④血液を介してうつる病気を予防するための基本的なエチケット、⑤HIV の感染力は弱く、学校や職場などのふだんの生活で感染することはないこと、であった。

7 ページ目の個別的情報内容は、①レッドリボン運動、②エイズ・メモリアルキルト、③エイズについての正しい知識をもって、HIV に感染した人に対する誤解や偏見をなくすことが重要であること、であった。

8 ページ目の個別的情報項目「個別的情報内容の理解」と回答方法 「このページを読んで、「(該当ページの個別的情報内容)」という問題について理解できましたか」という問に対して、「まったく理解できなかった (1 点)」から「非常によく理解できた (4 点)」までの 4 段階選択肢で回答させた。

8 ページ目の個別的情報内容は、①同じクラスや学校に感染者がいたら感染する心配があるか、②HIV に感染した人と手を触れたり会話しても大丈夫か、③蚊やダニなどを介して HIV がうつらないのはなぜか、④HIV に感染したかどうかはしたらわかるのか、⑤検査を受けたほうがいいのか、⑥検査結果が陰性であればエイズの心配はないのか、⑦ピルは性感染症の予防になるのか、であった。

(3) 事後測定

実験群における事後測定は、パンフレットの効果を解明するために実施された。パンフレット接触後の反応測定のための「パンフレットを読んだ後に答える質問」紙は、7 ページ構成であった。表紙には、「パンフレットをすべて読み終えた後で、次の質問紙へ回答してください。この調査では、プライベートな面について尋ねる質問項目もありますが、回答は無記名で行い、かつすべてのデータは統計的に処理しますので、個人的に迷惑をかけるようなことはありません。ご協力をお願いします。」と教示が書かれていた。

複数項目で測定する変数に関しては、項目間の内的整合性を α 係数を算出して確認した上で、項目平均を変数の得点として使用する。

エイズに関する主観的知識とエイズに対する関心 「パンフレットを読み終えた今の時点で、あなたはエイズ問題について、どのくらいの知識や関心をもっていますか。以下の 2 つの質問それぞれについて、4 つの選択肢のうち、最も当てはまるものをひとつ選んで、番号に○印をつけて答えてください。」と教示した。知識と関心は、事前測定と同じ質問項目と回答方法で測定した。

深刻さ認知と生起確率認知 「下記にエイズに関するさまざまな意見があります。それぞれの意見についてあなたはどう思いますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の 4 段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて答えてください。」と指示した。

深刻さ認知は、もし運悪く自分がエイズウイルスに感染したら、生きる気力を失うと思う、の 1 項目で測定した。生起確率認知は、運が悪ければ、将来自分自身がエイズウイルスに感染する可能性がある、の 1 項目で測定した。得点範囲は 1～4 点で、高得点ほど深刻さ認知と生起確率認知が高い。

恐怖感情 「エイズという病気を頭に思い浮かべた時に、あなたは下記のような感情をどのくらい感じますか。「まったく感じない」～「非常に感じる」までの4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて答えてください。」と指示した。

恐怖感情は、①心配、②不安、③恐ろしさ、④気がかり、の4項目で測定した。4項目の得点間には内的整合性が認められたので($\alpha=.69$)、これらの得点の項目平均を恐怖感情得点とした。得点範囲は1～4点であり、高得点ほど恐怖感情が強い。

PWH/Aに対する態度 「エイズウイルス感染者やエイズ患者に関するあなたの考えをお尋ねします。下記の意見についてあなたはどう思いますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて答えてください。」と指示した。

PWH/Aに対する態度は、①現実的に考えて第三者である私は、エイズウイルス感染者やエイズ患者に対して何もしてあげられないと思う(逆転項目)、②周囲の人から差別されているエイズウイルス感染者やエイズ患者がいれば、私はその人をかばい守ってあげると思う、③私はエイズウイルス感染者やエイズ患者を支えていく立場でありたいと思う、④エイズウイルス感染者やエイズ患者に同情はするが、自分から何かしてあげようとは思わない(逆転項目)、⑤親友がエイズウイルスに感染していると突然知らされても、その人とこれまで通りに接するだろう、の5項目で測定した。5項目の得点間には内的整合性が認められたので($\alpha=.80$)、これらの得点の項目平均をPWH/Aに対する態度得点とした。得点範囲は1～4点であり、高得点ほどPWH/Aに対する態度は肯定的である。

PWH/Aとの共生行動意思 「あなたは下記の4つの行動を実行するつもりがどのくらいありますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて答えてください。」と指示した。

PWH/Aとの共生行動意思は、①エイズ・ボランティア(電話相談、イベント開催の支援、募金活動など)へ参加するつもりがある、②レッドリボン(エイズウイルス感染者やエイズ患者に対する理解と支援を表す国際的シンボル)を身につけるつもりがある、③学校や職場など、身近にエイズウイルス感染者やエイズ患者がいる場合、その人が困っていれば、進んで援助するつもりがある、④学校や職場など、身近にエイズウイルス感染者やエイズ患者がいる場合、その人を友人として受け入れて付き合うつもりがある、の4項目で測定した。4項目の得点間には内的整合性が認められたので($\alpha=.80$)、これらの得点の項目平均をPWH/Aとの共生行動意思得点とした。得点範囲は1～4点であり、高得点ほどPWH/Aとの共生行動意思は強い。

不適応的対処 「エイズウイルスへの感染についてあなたの考えをお尋ねします。下記の記述について、あなたはどう思いますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて答えてください。」と指示した。

不適応的対処は、①この先、自分がエイズウイルスに感染するかどうかについては考えたくない(思考回避)、②私がエイズウイルスに感染するかどうかは、運次第だ(運命諦観)、③敢えて積極的に予防しなくても、自分はエイズウイルスに感染しないだろう(楽観主義)、④エイズウイルスの感染しないように神様に祈るだけだ(信仰)、の4項目で測定した。得点範囲は1～4点であり、高

得点ほど不適応的対処は大である。

コンドーム使用に関する項目 「エイズウイルスへの感染を予防するために、セックスの際にコンドームを使用することについて、あなたはどのように思いますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて教えてください。」と指示した。

反応効果性認知は「この方法は、エイズウイルスへの感染を防ぐのに効果的だ」、**反応コスト認知**は「この方法は、実行に伴ういろいろな負担が大きい」、**自己効力認知**あるいは**実行能力認知**は「この方法は、実行するのが難しい（逆転項目）」、**報酬認知**は「この方法を実行しないほうが得るものは大きい」、**実行者割合認知**は「この方法は、多くの人が実行している」、**責任認知**は「この方法を実行する責任がある」、**規範認知**は「この方法を実行することを周囲の人たちが期待している」、**行動意思**は「この方法を実行するつもりがある」、の各1項目で測定した。それぞれの得点範囲は1～4点であり、高得点ほどそれぞれの認知が高く、行動意思が大である。

不特定性関係抑制に関する項目 「エイズウイルスへの感染を予防するために、不特定多数の相手と性関係をもたないこと（相手を次々に変えるようなセックスをしないこと）について、あなたはどのように思いますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて教えてください。」と指示した。

コンドーム使用に関する項目の場合と同じ質問項目で、**反応効果性認知**、**反応コスト認知**、**自己効力認知**あるいは**実行能力認知**、**報酬認知**、**実行者割合認知**、**責任認知**、**規範認知**、**行動意思**、の各変数を測定した。

HIV 抗体検査受検に関する項目 「エイズウイルスへの感染を早期発見し早期治療するために、エイズ検査を受けることについて、あなたはどのように思いますか。「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の4段階のうち、一番よく当てはまる段階に○印をつけて教えてください。」と指示した。

コンドーム使用に関する項目の場合と同じ質問項目で、**反応効果性認知**、**反応コスト認知**、**自己効力認知**あるいは**実行能力認知**、**報酬認知**、**実行者割合認知**、**責任認知**、**規範認知**、**行動意思**、の各変数を測定した。

フェイスシート項目 「最後にあなた自身のことについてお尋ねします。」と断り、実験参加者の①性別、②年齢、③身近なエイズウイルス感染者やエイズ患者の存在の有無、について尋ねた。

4. 統制群における実験材料

(1) 事前測定

統制群における事前測定は、パンフレット接触前の初期反応を測定し、実験群の効果を判定する際のベースラインを確保するために実施した。パンフレット接触前の反応測定のための「パンフレットを読む前に答える質問」紙は、8ページ構成であった。表紙には、「パンフレットを読む前に、次の質問紙へ回答してください。この調査では、プライベートな面について尋ねる質問項目もありますが、回答は無記名で行い、かつすべてのデータは統計的に処理しますので、個人的に迷惑をかけるようなことはありません。ご協力をお願いします。」と教示が書かれていた。

エイズ情報への接触度、**エイズに関する主観的知識**、**エイズに対する関心** 実験群の事前測定と同じ様式で測定した。

深刻さ認知, 生起確率認知, 恐怖感情, PWH/A に対する態度, PWH/A との共生行動意思, 不適応の対処, コンドーム使用に関する項目 (反応効果性認知, 反応コスト認知, 自己効力認知あるいは実行能力認知, 報酬認知, 実行者割合認知, 責任認知, 規範認知, 行動意思), 不特定性関係抑制に関する項目 (反応効果性認知, 反応コスト認知, 自己効力認知あるいは実行能力認知, 報酬認知, 実行者割合認知, 責任認知, 規範認知, 行動意思), HIV 抗体検査受検に関する項目 (反応効果性認知, 反応コスト認知, 自己効力認知あるいは実行能力認知, 報酬認知, 実行者割合認知, 責任認知, 規範認知, 行動意思), フェイスシート項目 (性別, 年齢, 身近なエイズウイルス感染者やエイズ患者の存在の有無) 実験群の事後測定と同じ様式で測定した。なお, 恐怖感情, PWH/A に対する態度, PWH/A との共生行動意思に関する複数項目の得点間には内的整合性が認められたので ($\alpha = .87$, $\alpha = .72$, $\alpha = .75$), それらの得点の項目平均を恐怖感情得点, PWH/A に対する態度得点, PWH/A との共生行動意思得点とした。

(2) 接触中測定

統制群における接触中測定は, 実験の所要時間を実験群とそろえるために実施した。実験群とまったく同一の「パンフレットを読みながら答える質問」紙を使用した。

(3) 事後測定

統制群における事後測定は, 実験群と実験の進行の形式をそろえるために実施した。エイズに関する主観的知識とエイズに対する関心を問う 2 項目からなる 2 ページ構成の「パンフレットを読んだ後に答える質問」紙を用いた。

結果と考察

1. 実験群と統制群の等質性

実験群と統制群の等質性を検討するために, 実験群の事前測定におけるエイズ情報への接触度, エイズに関する主観的知識, エイズへの関心, 事後測定における年齢と, 統制群の事前測定におけるそれらの変数に関して, 平均と標準偏差を算出し, 両群の平均値を t 検定によって比較したところ有意差は見られなかった (表 1)。4 変数に関する比較という限定された検討ではあるが, 実験群と統制群の等質性が確認できた。

2. 初期反応とその性差

測定変数に関する初期反応を確認するために, ベースラインを構成する統制群の事前測定にお

表 1 実験群と統制群の等質性の確認

	実験群 ($n=57$)		統制群 ($n=58$)		t 検定		
	M	SD	M	SD	t 値	df	
AIDS 情報接触度	2.56	0.63	2.57	0.60	-0.07	113	<i>ns.</i>
AIDS 知識	2.28	0.56	2.16	0.45	1.33	107.39	<i>ns.</i>
AIDS への関心	2.65	0.83	2.57	0.80	0.53	113	<i>ns.</i>
年齢	20.40	1.78	20.12	1.24	0.99	113	<i>ns.</i>

注1 実験群は年齢以外は事前測定, 年齢は事後測定であった。統制群はすべて事前測定であった。

注2 身近なPWH/Aの有無については、「ある」と答えた人が統制群に1名, 実験群は0名であった。

る諸変数の平均と標準偏差を算出し、表 2 に示した。そして、これらの変数の平均値に関する性差を t 検定によって比較した結果を、表 2 に併せて示した。

エイズ情報への接触度とエイズに関する主観的知識は、男性の方が女性より有意に多かった。しかし、エイズに対する深刻さ認知は、女性の方が男性よりも有意に高かった。

コンドーム使用に関しては、男性のほうが女性よりも、効果性認知、実行能力認知、実行者割合認知が有意に高かったが、行動意思に有意な性差は見られなかった。不特定性関係抑制に関しては、

女性の方が男性よりも、効果性認知、実行能力認知、実行者割合認知、責任認知、規範認知が有意に高く、コスト認知、抑制しないことの報酬認知が有意に低く、行動意思が有意に強いことが判明した。HIV 抗体検査受検に関しては、女性の方が男性よりも、効果性認知、実行者割合認知、責任認知、規範認知が有意に高く、行動意思が有意に強かった。しかし、女性の方が男性よりも、受検しないことの報酬認知が高いという矛盾も一部見られた。また、女性の方が男性よりも、不適応的対処のひとつである楽観主義が顕著であるという矛盾した反応も見られた。

そして、女性の方が男性よりも、PWH/A に対する態度が有意に肯定的であり、PWH/A との共生行動意思も有意に強かった。

初期反応に相当する統制群の事前測定における 36 変数中 23 変数で有意な性差が得られたことから、初期反応には広範囲に性差が存在すると判断できる。

3. パンフレットの効果

パンフレットの効果を判定するために、実験群の事後測定における諸変数と統制群の事前測定における諸変数の平均と標準偏差を算出し、両群間の平均値の差を t 検定によって比較した (表 3)。その結果、実験群と統制群の間で有意差の見出された変数は、35 変数中わずか 5 変数に過ぎなかった。しかも、4 変数に関しては、予測した方向での効果が得られたが、1 変数に関しては、予測と逆の効果が得られた。すなわち、実験群の方が統制群よりも、エイズに関する主観的知識とエイズに対する関心は有意に増加しており、コンドーム使用の効果性認知は有意に高まり、PWH/A に対する態度は有意に肯定的となったが、HIV 抗体検査の効果性認知は有意に減少した。このように、本実験で検証しようとしたパンフレットの効果は必ずしも明確ではなかった。

同様の実験群と統制群の差を男女別に検討する。実験群と統制群の男性の平均と標準偏差、および t 検定による群間比較の結果を表 4 に示した。有意差が見られたのは 35 変数中 3 変数に過ぎなかった。男性の場合、実験群の方が統制群よりも、エイズに関する主観的知識は有意に増加し、PWH/A に対する態度は有意に肯定的であり、PWH/A との共生行動意思も有意に強かった。男性に対するパンフレットの効果はきわめて部分的にしか生じなかったが、生じた効果はすべて予測方向と一致した。

実験群と統制群の女性の平均と標準偏差、および t 検定による群間比較の結果を表 5 に示した。有意差が見られたのは 35 変数中 4 変数に過ぎなかった。女性の場合、実験群の方が統制群よりも、エイズに関する主観的知識とエイズに対する関心は有意に増加し、コンドーム使用の効果性認知は有意に高くなったが、HIV 抗体検査の効果性認知は有意に低くなった。女性に対するパンフレットの効果も非常に部分的にしか認められなかったが、その効果の中には予測と逆方向の効果が 1 個存

在していた。

本研究で得られたパンフレット効果に関する性差は、パンフレット効果それ自体が顕著でなかったこともあって、小さいと判断せざるを得ない。

表2 統制群の事前測定における M (SD) とその性差の検討：初期反応

	全体		男性($n=25$)		女性($n=33$)		t検定		
	M	SD	M	SD	M	SD	t値	df	
AIDS情報接触度	2.57	0.60	2.68	0.63	2.48	0.57	1.24	56	*
AIDS知識	2.16	0.45	2.24	0.52	2.09	0.38	1.20	42.35	*
AIDSへの関心	2.57	0.80	2.64	0.86	2.52	0.76	0.59	56	†
AIDS恐怖($\alpha=.87$)	3.26	0.70	3.23	0.76	3.28	0.67	-0.23	56	†
深刻さ認知	2.83	0.86	2.56	0.96	3.03	0.73	-2.04	43.28	**
生起確率認知	3.05	0.69	3.08	0.70	3.03	0.68	0.27	56	†
コンドーム効果性	3.31	0.75	3.56	0.51	3.12	0.86	2.27	56	**
コンドームコスト	1.86	0.74	1.80	0.76	1.91	0.72	-0.56	56	†
コンドーム実行能力	3.57	0.73	3.72	0.54	3.45	0.83	1.47	54.90	*
コンドーム報酬	1.55	0.71	1.56	0.65	1.55	0.75	0.08	56	†
コンドーム実行割合	2.81	0.83	3.00	0.87	2.67	0.78	1.54	56	*
コンドーム責任	3.47	0.71	3.44	0.71	3.48	0.71	-0.24	56	†
コンドーム規範	3.00	0.82	2.96	0.79	3.03	0.85	-0.32	56	†
コンドーム使用意思	3.53	0.71	3.52	0.71	3.55	0.71	-0.13	56	†
抑制効果性	3.45	0.71	3.32	0.63	3.55	0.75	-1.21	56	*
抑制コスト	1.81	0.91	1.96	0.84	1.70	0.95	1.10	56	*
抑制実行能力	3.45	0.78	3.36	0.76	3.52	0.80	-0.75	56	*
抑制報酬	2.05	1.03	2.32	0.95	1.85	1.06	1.75	56	**
抑制実行割合	2.36	0.81	2.24	0.93	2.45	0.71	-1.00	56	*
抑制責任	2.97	1.01	2.72	1.06	3.15	0.94	-1.64	56	*
抑制規範	2.81	1.05	2.64	1.15	2.94	0.97	-1.08	56	*
不特定性関係抑制意思	3.22	0.94	2.92	1.00	3.45	0.83	-2.22	56	**
検査効果性	3.59	0.65	3.44	0.77	3.70	0.53	-1.51	56	*
検査コスト	2.28	0.87	2.24	0.88	2.30	0.88	-0.27	56	†
検査実行能力	2.59	0.92	2.60	1.00	2.58	0.87	0.10	56	†
検査報酬	1.55	0.73	1.44	0.51	1.64	0.86	-1.09	53.17	*
検査実行割合	2.05	0.69	1.92	0.57	2.15	0.76	-1.28	56	*
検査責任	2.91	0.98	2.60	1.00	3.15	0.91	-2.20	56	**
検査規範	2.93	0.83	2.72	0.84	3.09	0.80	-1.70	56	**
検査意思	2.79	0.79	2.64	0.70	2.91	0.84	-1.29	56	*
思考回避	2.72	0.83	2.76	0.97	2.70	0.73	0.28	56	†
運命論観	2.40	0.82	2.48	0.87	2.33	0.78	0.68	56	†
楽観主義	1.83	0.82	1.72	0.84	1.91	0.80	-0.87	56	*
信仰	1.79	0.81	1.80	0.76	1.79	0.86	0.06	56	†
PWH/Aへの態度($\alpha=.72$)	2.69	0.47	2.54	0.48	2.80	0.44	-2.17	56	**
共生行動意思($\alpha=.75$)	2.54	0.56	2.28	0.48	2.74	0.53	-3.39	56	**

注1 ** $p<.01$ * $p<.05$ † $p<.10$

表3 実験群の事後測定得点と統制群の事前測定得点の比較：パンフレットの全体的評価

	実験群(n=57)		統制群(n=58)		t検定		
	M	SD	M	SD	t値	df	
AIDS知識	2.89	0.56	2.16	0.45	7.83	113	***
AIDSへの関心	3.05	0.87	2.57	0.80	3.10	113	**
AIDS恐怖($\alpha = .69$)	3.29	0.53	3.26	0.70	0.27	105.67	ns.
深刻さ認知	3.00	0.78	2.83	0.86	1.13	113	ns.
生起確率認知	2.89	0.84	3.05	0.69	-1.10	113	ns.
コンドーム効果性	3.63	0.59	3.31	0.75	2.55	113	*
コンドームコスト	1.74	0.81	1.86	0.74	-0.87	113	ns.
コンドーム実行能力	3.54	0.68	3.57	0.73	-0.19	113	ns.
コンドーム報酬	1.58	0.71	1.55	0.71	0.21	113	ns.
コンドーム実行割合	2.82	0.80	2.81	0.83	0.09	113	ns.
コンドーム責任	3.60	0.68	3.47	0.71	1.01	113	ns.
コンドーム規範	2.98	0.79	3.00	0.82	-0.12	113	ns.
コンドーム使用意思	3.40	0.84	3.53	0.71	-0.90	113	ns.
抑制効果性	3.47	0.73	3.45	0.71	0.19	113	ns.
抑制コスト	1.61	0.82	1.81	0.91	-1.22	113	ns.
抑制実行能力	3.35	0.86	3.45	0.78	-0.64	113	ns.
抑制報酬	1.84	0.98	2.05	1.03	-1.12	113	ns.
抑制実行割合	2.39	0.84	2.36	0.81	0.16	113	ns.
抑制責任	3.12	0.91	2.97	1.01	0.88	113	ns.
抑制規範	2.96	1.07	2.81	1.05	0.78	113	ns.
不特定性関係抑制意思	3.39	0.90	3.22	0.94	0.94	113	ns.
検査効果性	3.26	0.79	3.59	0.65	-2.39	113	*
検査コスト	2.16	0.82	2.28	0.87	-0.75	113	ns.
検査実行能力	2.63	0.94	2.59	0.92	0.26	113	ns.
検査報酬	1.39	0.49	1.55	0.73	-1.43	100.03	ns.
検査実行割合	1.95	0.69	2.05	0.69	-0.81	113	ns.
検査責任	3.00	0.80	2.91	0.98	0.52	113	ns.
検査規範	2.77	0.96	2.93	0.83	-0.95	113	ns.
検査意思	2.70	1.02	2.79	0.79	-0.54	105.58	ns.
思考回避	2.44	0.95	2.72	0.83	-1.72	113	†
運命諦観	2.16	0.84	2.40	0.82	-1.55	113	ns.
楽観主義	1.68	0.74	1.83	0.82	-0.99	113	ns.
信仰	1.61	0.75	1.79	0.81	-1.23	113	ns.
PWH/Aへの態度($\alpha = .80$)	2.89	0.56	2.69	0.47	2.12	113	*
共生行動意思($\alpha = .81$)	2.62	0.56	2.54	0.56	0.71	113	ns.

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

注2 実験群のデータは事後測定、統制群のデータは事前測定のものを使用した。

表4 男性における実験群の事後測定得点と統制群の事前測定得点の比較

	実験群 ($n=25$)		統制群 ($n=25$)		t検定		
	M	SD	M	SD	t値	df	
AIDS知識	3.00	0.50	2.24	0.52	5.25	48	***
AIDSへの関心	3.08	0.81	2.64	0.86	1.86	48	†
AIDS恐怖	3.44	0.44	3.23	0.76	1.19	38.30	ns.
深刻さ認知	2.88	0.83	2.56	0.96	1.26	48	ns.
生起確率認知	3.04	0.93	3.08	0.70	-0.17	48	ns.
コンドーム効果性	3.64	0.49	3.56	0.51	0.57	48	ns.
コンドームコスト	1.92	0.81	1.80	0.76	0.54	48	ns.
コンドーム実行能力	3.52	0.65	3.72	0.54	-1.18	48	ns.
コンドーム報酬	1.48	0.71	1.56	0.65	-0.41	48	ns.
コンドーム実行割合	2.84	0.80	3.00	0.87	-0.68	48	ns.
コンドーム責任	3.76	0.52	3.44	0.71	1.81	44.06	†
コンドーム規範	3.00	0.76	2.96	0.79	0.18	48	ns.
コンドーム使用意思	3.56	0.77	3.52	0.71	0.19	48	ns.
抑制効果性	3.40	0.82	3.32	0.63	0.39	48	ns.
抑制コスト	1.88	0.97	1.96	0.84	-0.31	48	ns.
抑制実行能力	2.96	1.06	3.36	0.76	-1.54	48	ns.
抑制報酬	2.16	1.07	2.32	0.95	-0.56	48	ns.
抑制実行割合	2.04	0.84	2.24	0.93	-0.80	48	ns.
抑制責任	2.88	1.05	2.72	1.06	0.53	48	ns.
抑制規範	2.56	1.12	2.64	1.15	-0.25	48	ns.
不特定性関係抑制意思	3.04	1.02	2.92	1.00	0.42	48	ns.
検査効果性	3.12	0.93	3.44	0.77	-1.33	48	ns.
検査コスト	2.20	0.82	2.24	0.88	-0.17	48	ns.
検査実行能力	2.40	0.96	2.60	1.00	-0.72	48	ns.
検査報酬	1.36	0.49	1.44	0.51	-0.57	48	ns.
検査実行割合	1.84	0.69	1.92	0.57	-0.45	48	ns.
検査責任	2.92	0.91	2.60	1.00	1.18	48	ns.
検査規範	2.72	0.98	2.72	0.84	0.00	48	ns.
検査意思	2.84	0.99	2.64	0.70	0.83	48	ns.
思考回避	2.20	1.04	2.76	0.97	-1.97	48	†
運命諦観	2.16	0.90	2.48	0.87	-1.28	48	ns.
楽観主義	1.52	0.77	1.72	0.84	-0.88	48	ns.
信仰	1.68	0.85	1.80	0.76	-0.52	48	ns.
PWH/Aへの態度	2.97	0.62	2.54	0.48	2.76	48	**
共生行動意思	2.60	0.55	2.28	0.48	2.15	48	*

注1 *** $p<.01$ ** $p<.01$ * $p<.05$ † $p<.10$

注2 実験群のデータは事後測定、統制群のデータは事前測定のものを使用した。

表5 女性における実験群の事後測定得点と統制群の事前測定得点の比較

	実験群 (n=32)		統制群 (n=33)		t検定		
	M	SD	M	SD	t値	df	
AIDS知識	2.81	0.59	2.09	0.38	5.81	52.94	***
AIDSへの関心	3.03	0.93	2.52	0.76	2.46	63	*
AIDS恐怖	3.17	0.57	3.28	0.67	-0.69	63	ns.
深刻さ認知	3.09	0.73	3.03	0.73	0.35	63	ns.
生起確率認知	2.78	0.75	3.03	0.68	-1.40	63	ns.
コンドーム効果性	3.63	0.66	3.12	0.86	2.65	63	*
コンドームコスト	1.59	0.80	1.91	0.72	-1.67	63	†
コンドーム実行能力	3.56	0.72	3.45	0.83	0.56	63	ns.
コンドーム報酬	1.66	0.70	1.55	0.75	0.61	63	ns.
コンドーム実行割合	2.81	0.82	2.67	0.78	0.74	63	ns.
コンドーム責任	3.47	0.76	3.48	0.71	-0.09	63	ns.
コンドーム規範	2.97	0.82	3.03	0.85	-0.30	63	ns.
コンドーム使用意思	3.28	0.89	3.55	0.71	-1.33	63	ns.
抑制効果性	3.53	0.67	3.55	0.75	-0.08	63	ns.
抑制コスト	1.41	0.61	1.70	0.95	-1.46	63	ns.
抑制実行能力	3.66	0.48	3.52	0.80	0.86	63	ns.
抑制報酬	1.59	0.84	1.85	1.06	-1.07	63	ns.
抑制実行割合	2.66	0.75	2.45	0.71	1.12	63	ns.
抑制責任	3.31	0.74	3.15	0.94	0.77	63	ns.
抑制規範	3.28	0.92	2.94	0.97	1.46	63	ns.
不特定性関係抑制意思	3.66	0.70	3.45	0.83	1.06	63	ns.
検査効果性	3.38	0.66	3.70	0.53	-2.17	59.37	*
検査コスト	2.13	0.83	2.30	0.88	-0.84	63	ns.
検査実行能力	2.81	0.90	2.58	0.87	1.08	63	ns.
検査報酬	1.41	0.50	1.64	0.86	-1.32	51.67	ns.
検査実行割合	2.03	0.69	2.15	0.76	-0.67	63	ns.
検査責任	3.06	0.72	3.15	0.91	-0.44	63	ns.
検査規範	2.81	0.97	3.09	0.80	-1.26	63	ns.
検査意思	2.59	1.04	2.91	0.84	-1.34	63	ns.
思考回避	2.63	0.83	2.70	0.73	-0.37	63	ns.
運命諦観	2.16	0.81	2.33	0.78	-0.90	63	ns.
楽観主義	1.81	0.69	1.91	0.80	-0.52	63	ns.
信仰	1.56	0.67	1.79	0.86	-1.18	63	ns.
PWH/Aへの態度	2.83	0.52	2.80	0.44	0.26	63	ns.
共生行動意思	2.63	0.57	2.74	0.53	-0.80	63	ns.

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

注2 実験群のデータは事後測定、統制群のデータは事前測定のものを使用した。

引用文献

- 深田博己・木村堅一 (2000). エイズ予防行動意思に及ぼす恐怖-脅威アピールの効果-ビデオ教材の効果分析- 日本社会心理学会第 41 回大会発表論文集, 492-493.
- 深田博己・高本雪子 (2007). HIV 対処行動意思に及ぼす AIDS に関する知識, 関心, および恐怖感情の影響 広島大学心理学研究, 7, 印刷中.
- 深田博己・戸塚唯氏 (2001). 環境配慮行動意思を改善する説得技法の開発 未公刊資料
- 木村堅一 (1995). エイズ予防行動意志に及ぼす脅威の大きさ, 対処行動の効果性及びコストの効果-脅威アピールにおける修正防護動機理論の検討- 広島大学教育学部紀要 第一部 (心理学), 44, 59-66.
- 木村堅一 (1996). 防護動機理論に基づくエイズ予防行動意図の規定因の検討 社会心理学研究, 12, 86-96.
- 木村堅一 (1997). 防護動機理論に基づくエイズ予防行動意図の規定因の検討(2)-脅威に対する関連性の役割について- 広島大学教育学部紀要 第一部 (心理学), 46, 33-40.
- 木村堅一 (1999). エイズ教育に効果的な視聴覚教材の開発に関する基礎研究 (1) -防護動機理論からの視聴覚教材の内容分析- 中国四国心理学会論文集, 32, 114.
- 木村堅一 (2000). エイズ教育に効果的な視聴覚教材の開発に関する基礎研究 (2) -視聴覚教材の効果分析- 日本社会心理学会第 41 回大会発表論文集, 494-495.
- 木村堅一・深田博己 (1995). エイズ患者・HIV 感染者に対する偏見に及ぼす恐怖-脅威アピールのネガティブな効果 広島大学教育学部紀要 第一部 (心理学), 44, 67-74.
- 日本学校保健会 (2003). AIDS 正しい理解のために 高校生用エイズ教育教材 (11 版) (財) 日本学校保健会
- Rogers, R. W. (1983). Cognitive and physiological processes in fear appeals and attitude change: A revised theory of protection motivation. In J. T. Cacioppo & R.E. Petty (Eds.), *Social psychophysiology*. New York: Guilford Press. Pp.153-176.
- 高本雪子 (2006). HIV 対処行動意思に及ぼす AIDS 教育の影響過程-防護動機理論と集会的防護動機モデルに基づく分析- 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域), 55, 267-276.
- 高本雪子・深田博己 (2006). HIV 感染への不適応的対処に及ぼす AIDS 教育の効果-防護動機理論と集会的防護動機モデルに基づく分析- 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域), 55, 267-276.
- 高本雪子・深田博己 (2008). HIV 対処行動意思と HIV 感染者・AIDS 患者への態度に及ぼす AIDS 情報の効果 対人社会心理学研究, 8, 印刷中.

[付記] 本研究は, 平成 17 年度~平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究課題番号: 17530451, 研究科題名: エイズ患者との共生およびエイズ感染予防を促進するエイズ教育用教材の開発, 研究代表者: 深田博己) による助成を受けて実施した。